



TAKEFU WEEKLY



創立/1954年(昭和29年)6月30日
 事務局/〒915-8522 越前市塚町101 武生商工会館内
 TEL. 0778-23-5210・FAX. 0778-22-2333 E-mail:takefur@es.ttn.ne.jp

例会日/毎週火曜日 例会場/武生商工会館
 会長/宇野 晃成 幹事/上野 巖
 会報委員長/梅田 雅彰

第3299回 例会記録 令和6年8月20日(火)

本日出席会員 30名

メイクアップ(前々回) 1名

出席率(前々回補正) 74.42%

「君が代」斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」

ゲスト 第2650地区ガバナー 中本 勝氏
 ガバナー補佐 大刀 隆雄氏
 第2650地区幹事長 松山 隆氏

会員総数
43名

会長挨拶 第71代会長 宇野 晃成



2024-25年度、武生府中ロータリークラブ、武生ロータリークラブ合同でのガバナー公式訪問例会に際しまして、国際ロータリー第2650地区ガバナー中本勝様には遠路奈良から、紫式部が唯一都以外ですごした町、武生において頂きましたこと、両クラブ会員一同心より感謝、そして歓迎申し上げます。また地区幹事長の松山隆様、ガバナー補佐の大刀様におかれましても、お忙しい中、ご列席をいただいておりますこと、誠にありがとうございます。

さて新年度がスタート致しまして早2か月が過ぎようとしております。今年度、アーチック国際ロータリー会長はご自身の体験より「ロータリーのマジック(The Magic of Rotary)」をテーマと掲げられ、インクルージョンと帰属意識に焦点を当て行動することで目的を達成できる、とお話しされています。

また中本ガバナーは、地区テーマとして「持続可能なロータリーに！共に学び共に行動」を掲げられました。この数年間、コロナ禍の影響により、私たちロータリ

アンは活動を縮小せざるを得なかったと思います。特にわが武生RCは昨年創立70周年を迎えましたが、この数年間に会員移動などがあり、諸先輩方からの学びが途絶えてしまったように感じております。このことは残念であるとともに、とらえ方によっては逆にチャンスとも感じています。

今年度、中本ガバナーの地区テーマ「持続可能なロータリーに！共に学び共に行動」の下、新たな出発の年として参りたいと考えております。後ほどガバナーよりアドレスをいただきますが、一年を通してご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。歓迎の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

プログラム

ガバナーアドレス

第2650地区ガバナー 中本 勝氏



今年度国際ロータ第2650地区ガバナーを拝命いたしました中本勝です。所属は奈良RCでございます。本日は、朝の5時に目が覚めまして、6時に家を出まして、生まれて初めて武生の地に入らせていただきました。通ったことはあるんですけども、車で降りて地面を踏みしめたというのは生まれて初めてでございます。周りが山に囲まれていまして、しかも、日野川ですが、我々奈良県のに住むものにとっては大河やなと思うぐらいの立派な川幅のある素晴らしい土地だなと思って見せていただきました。

武生商工会議所ということでございますが、奈良の商工会議所は、去年新しく近鉄奈良駅前から大和西大寺駅というところに移ったそうで、それほど新しい商工会議所のことは知らないんですけども、それまでずっとありました近鉄奈良駅の近くの奈良商工会議所の

ビルはよく知っておりまして、この部屋ぐらいの大きさでございました。一応、県庁所在地でございますが、その商工会議所が、この部屋よりもちょっとこれちっちゃいんじゃないかなと思うぐらいでございまして、この武生商工会議所のビルっていうのは大きくて立派だなと思って感心しております。そんなこともありまして、非常に気押されているとかビビっておる私でございますけれども、ガバナーというのは地区における国際ロータリーの唯一の役員であるということでございます。

国際ロータリーの今年度の方針、あるいは今年度、会長ステファニー・アーチックさんから伝えられたことを皆様方にお伝えせねばならぬと思っておるわけですが、そんな話を最初からしましても、全然、面白くないと思いますので、私の自己紹介を兼ねまして、職業選択のいきさつ、そしてロータリーとの関わりとお話をさしていただいて、余った時間をそれに当てたいと思っておりますので、しばしご辛抱のほどお願いいたします。私は、1950年、昭和25年の2月の生まれでございます。いわゆる団塊の世代の3年目、1番人数の多い時代でありまして、確か同級生は250万人近くいたと思っております。令和5年度、昨年度の我が国での新生児の出生者の数というのが71万人だそうでございます。それに比べれば3.5倍の人数がおったわけでありまして、当時は、戦後日本の復興、そして日本の繁栄というものを期待された希望の星のような世代のように若い頃、小さい頃は言われておったわけですが、今となりましては我が国の年金財政を破綻に導こうとする元凶の世代いうふうに使われておるわけでありまして、もう腹立つというか、当たってないこともないと思うと余計悔しいわけでございます。時間が経てばですね、世間の評価もこうも変わってくるのと悲しく思っておるわけでありまして、

大学は一応法学部というところにおりました。

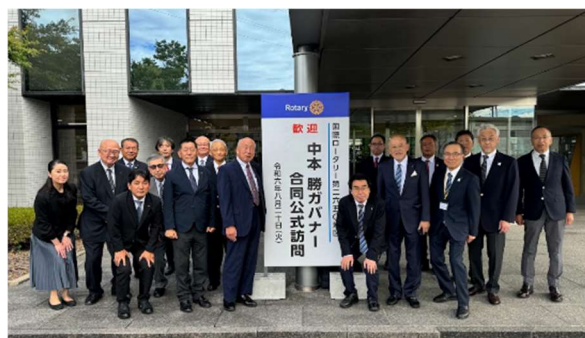
ただ、同時に、硬式庭球部というところに入りました。そうしますと、毎朝9時に学校へ、テニスコートに集合いたしまして夕方5時までテニスをするという生活を送っておりまして、授業というものには出していない中、雨の日は出てもよろしいということでございます。ところが、実際テニスをしましたのは午前20分、午後20分の40分だけでございました。他の時間は何をしておったのかと言いますと、ボールボーイとコート整備、トンボというコートをならず道具がある、それをずっとやらされておりました。従いまして、ボールボーイとコート整備の腕前はまたたく間にプロ級になったわけでありまして、テニスの腕前は一向に上がらなかった。元々あんまり運動のセンスがなかったのかもわかりませんが、我々の1学年下、高校3年生当時でありまして、沢松和子という有名な選手、神戸松蔭女子高校でございましたが、有名な選手がおりまして、3松姉妹とって、彼女、和子さんは、高3のときに全日本テニス選手権の女子シングルの部で優勝いたしました。後には全英選手権、ウィンブルドン

の女子ダブルスで優勝をしました。ウィンブルドンで優勝した唯一の日本人選手でございます。彼女が高3の時に全日本選手権の女子シングルス決勝に勝ちましてチャンピオンになったわけでありまして、それで、その試合は大阪の鞆公園のセンターコートで行われました。私はその決勝の試合のボールボーイをしておりました。青春の全てをかけてテニスに打ち込んだわけでありまして、唯一の成果というのは、沢松の決勝にボールボーイをさせてもらったということでございます。2年生になりまして、ちょっとは実際テニスの練習ができるんだろと思っておりまして、大学紛争というのが発生いたしました。1年の時は出なかったんですけども、2年になれば授業そのものがなくなってしまいました。クラブも運営できなくなって、1年丸々ブラブラ住んでおったわけでありまして、3年生になって、やっと授業再開ということになりまして、授業が再開され、私なんては、教養課程はほとんど無試験で、登録してない専門課程に進んだわけでありまして。ちょっとは勉強しようと、2年間何の勉強もしてなかったわけでありまして、勉強しないといけないかなと思っておったわけでありまして、そうしますと、大学テニス部の先輩が来て、僕の願いを聞いてくれと、お願いだということで言われますので、何かと思えば、とある都市銀行の入社面接を受けてほしいということでございます。人事担当取締役という方が出てこられて、色々お話し、何をおっしゃるかと思えば、我が行の未来を担うのは君だとか言うのと、肩をぽんってたたかれましてですね、何かと思えば合格なんですね。これで、ペーパーの学生が行ったことのないような立派な割烹料理店に連れてきました。食べたことのないような料理いただいて帰った。その頃は、今とはもう全く考えられないような青田買いの時代でございました。俺の願いを聞いてくれと言った先輩は1年上で、4年生です。まだ就職してない、そんなやつに誰かええやつ連れてこいと、その銀行に、いや、就職が決まっておったんですよ、だけど、まだ実際に就職してない先輩に対して、誰かええやつを連れてこいと行って、3年生になったばかりの僕を連れてきて、で、話して合格って、そんな馬鹿な話があるのかなと思わしてですね、非常にありがたいお話ではございましたけれども、これをうんと受ければ僕の人生はダメになると思わしてですね、ここはお断りして考え直さないといけないと私はその時思いました。断る理由っていうのが必要なわけでありまして、いや、お宅よりもっといい会社へ行きたいなんていうことはもう死んでも言えないわけでありまして。変な断り方しますと、我々にも後輩というもんがおりますと、その先輩の顔とその企業、銀行のメンツっていうのを潰すということになりましてですね、ええ加減な断り方はできないということで、だいぶ悩んでみまして、当時の法学部の学生で唯一波風立てずに円満にお答えできる理由っていうのは、申し訳ございません、司法試験を目指したいと思わすと、これしかなかったわけでありまして。仕方ないか

らそう言いました。何も正直通るとは全く思っていなかったわけでありましたが、そう言わざるを得ないということによって、当時の私としてはあえて茨の道を進むんだという風にかっこよく思っていたわけでありましたが、実際やってみますと、めちゃめちゃ茨の道でございました。もうやめといたら良かった、あの時にそのままうんと言うといたら良かった、辛い思いすることのないにと半泣きなんて、もうだいぶ後悔したわけですが、もう普通の就職ができない身の上になってしまいましたので、もうその道を進むしかないということで、半泣き半泣きとか全泣きになりながら勉強をしておったわけですが、幸運が二重、三重、四重ぐらい重なりまして、なんとか司法試験合格することができました。そして、大阪で、大先生の事務所に勤務いたしまして、6年間頑張りまして、32歳の時に奈良に移りまして独立いたしました。そして、翌年、33歳の時に奈良 RC というところに縁あって入会させられたというか、入会したわけでありまして。その当時は、奈良 RC の中では最年少でございまして、大変可愛がっていただきました。あんまり可愛がられすぎて、相撲部屋の可愛がりと同じぐらい、もう非常に可愛がっていただいてですね、おい中本、ちょっと来いとか、なんかもういっぱい色々辛いことをさせられた、ま、まあ楽しかったことは楽しかったんですけども、可愛がっていただきました。可愛がりの相撲部屋で可愛がられた力士が強くなるかと言えば、必ずしもそうでもなさそうでございますが、僕ももう可愛がってただけで、もう1つ大したことはなかったわけですが、色々先輩から教えていただきました。おい中本、お前はロータリーを奉仕団体やと思ってるやろとか言われて、はいとか言ったら、馬鹿者とか言われて。ロータリーは奉仕団体ではない。奉仕する人の団体である。ああそうかとその時思いましたですね。だから、職業を通じて社会に奉仕する、そういう人の集まりがロータリークラブである。だから、アイサーブっていうのがまず大前提である。わかったかとか言われました。はあ、わかりましたと、こうやったわけでありまして、その次、アイサーブだけではあかんと、こう言いまして、アイサーブが前提とおっしゃったのではないですかとか言ったら、アイサーブだけではできることが限られると、お前が自分の職業で社会に奉仕すると言ったところで知れとるやろ。そうですね、自分の仕事に関することだけです。だから、みんなで奉仕するウィーサーブっていうのが大事なんだ。分かったかと言われました。アイサーブとウィーサーブはロータリーの奉仕の料理だ、どっちがかけてもあかんとか言われて、ああ、そうですかと、その当時、それが、その私にとりまして、その先輩のお言葉がずっと、こう胸に落ちたというんですか、腑に落ちたというんですか、抵抗なく受け入れられたわけでありまして。私は、どちらかと言いますと反抗的な人間ですんで、なんか言うてはることに対して、嘘やろとか、ひょっとしたら、ええ加減なこと言うるとるんちゃうっていう風に、こう思

いやすいタイプの人間でございます。素直に人のおっしゃることを、その通り、全くその通りだなと思わなかったわけでありまして、その当時、ロータリーの先輩から言われたことに関しましては、なんとなしに自分でもう腑に落ちたなど。ああ、その通りやなど。私も今と比べればめちゃめちゃ若かったわけでありまして、自分はこれから先、弁護士としてどのように社会に対して貢献していく、いくことができるんだらうというのを我ながら考えておりました。そういう時に、ロータリーの先輩からそのように教えられて、そして、自分の職業一生懸命やるのと、それで社会に対して奉仕するというロータリークラブで色々なことを一生懸命やって、ウィーサーブという思いでやっていくのがいいんだなどその当時、思ってたことと今日まで来たわけでありまして。今から2年半ほど前でございまして、我がクラブの歴代会長王というのが突然、私の事務所に参りまして、今日うんと言わない限り私たちは帰りません、こういう話でございまして。私としてはめちゃ困ったわけでありまして、もうあなたも忙しいし、我々も忙しいから、早くうんと言いなさい。我々も帰りたいんだという風におっしゃった。もう帰っていただきたい一心で、わかりました、わかりました、どうぞお帰りくださいと申し上げてしまったわけでありまして。そのような失敗のために、本日、私は皆様方の前でこんなお話をさせていただかなければならない運命になってしまったということでございます。情けない、ほんまに情けない、あの歴代会長めと今でも思ってるんですけども。その当時、その教えられたことがですけど、ロータリーっていうのはノーという返事はないんだと、返事は3つ、はい、イエス、喜んで、この3つしかないんだ、と、もう徹底的に可愛がられた頃に教え込まれたんで、もう早く帰ってほしいという思いだけで、はい、はい、はい、はい。「はい」は1回でよろしいとか言われて、こうなってしまう。ところが、先日聞きましたらですね、まだ4つ目の答えがあるらしいです。はい、イエス、喜んで。もう1つは、待ってました！って言わなあかん。さすがにそれはないやろうと思いましたが、そんなことは言わない。情けない。1年頑張っただけで得んわけない。もうあとちょっとしかありませんが。そんなことでこういう運命になってしまったわけでありまして、本年1月、能登で深刻な地震がありました。そして、2日には羽田空港で航空機の事故がありまして、幸い旅客機に乗った乗客は誰一人亡くならず助かったわけでありまして、今年、日本は一体この先どうなるか、心配しながら、1月の5日でございまして、羽田空港、まだ飛行機の残骸が残ってるなかで飛び立ちまして、アメリカフロリダ州オーランドで開催されました国際協議会に参加してまいりました。会長、ステファニー・アーチック会長のテーマは「ザ・マジック・オブ・ロータリー」ということとございまして、私は、そのアーチック会長のお話を生で聞いてまいりました。何をおし

やっってるのか、全然わかりませんでした。それは、英語を喋っておられたからであります。私は、英語言うてはるのは何も全然わかりません。仕方ないので、日本へ帰ってきまして、翻訳されたやつを読ませていただきました。10回20回、25回ぐらいは少なくとも読んだと思いますか。何言うてはるのか、ようわかりませんでした。英語の読解力はゼロ。日本語の読解力はもうひとつ。なんか、字は読めるってのは読めますけど、その書いてあることの意味ということを判断する能力がほとんどございません。仕方ないので、私は私なりの今年度の地区のテーマを事務局からはよ出せって言われましたんで、考えて出しまして、「持続可能なロータリーに！共に学び共に行動」という風にさせていただきました。幸いにして、それとアーチックさんがおっしゃってることは根本的には矛盾してなかったわけでありまして。まあまあ、なんかかんや言いながら、整合はしないかもわかりませんが、矛盾はしてないなということを感じておりまして、また、地区内の多くの会長さんにも、いや、おそらくお世辞やと思うんですけども、なかなかの立派なスローガンでございますと、おっしゃっていただいた人も中にはありまして、ものすごく嬉しかったんです。我々、これまでやってきたこと、そしてこれからやっていこうとすることに関しまして、素晴らしい実績があるわけでありまして。しかしながら、決して、我々の行く道はですね、順風満帆とは言えない状態が続いておると思っています。その最大の原因は、会員増強がなかなか困難な状況にあるということではないかと思っております。それには様々な要因があると思っております。しかし、我々は進んでいこうという道がですね、決して輝きのない、暗い、この先暗いところを進んでいくというわけでは決してないと思っております。むしろ、世の中全体がこういうロータリーの奉仕の精神、超我の奉仕というようなものの考え方を理解して、経済の発展のみを重視し、奉仕活動ということに対する理解がかつてのように全面的賛同が得られない社会状況にあるとして、それであればあるほど我々が進んでいこうとする道の輝きというものには失われることは決してない、むしろより輝くべき道であろうという風に考えております。どうぞ皆さん方、それぞれのお仕事、そしてそれぞれの地域社会の状況の中で、必ずしも順風満帆あるいは厳しい状況の中におられましても、これまでやってこられた、そしてこれからもやっていこうとされていることの輝きを決して閉ざすことなく、持続可能なロータリーというものに対して、皆さん共々楽しく愉快地にロータリー活動を展開していただきたいと思います、そのように念願いたしまして、簡単ではございますが、私のガバナーアドレスとさせていただきます。ありがとうございます。



ニコニコ箱・・・55,782円 累計 334,782円

・国際ロータリー第2650地区 武生府中RC、武生RC 合同例会訪問を自祝して

【中本 勝ガバナー】【大刀隆雄ガバナー補佐】
【松山 隆幹 幹事長】



・中本ガバナーの公式訪問に敬意を表しまして、出席者全員からいただきました。
・癒しの会 ワイナリーツアー 残金をいただきました。

本日(8月27日)の例会
武生国際音楽祭 PR
補助金事業(みんなのコンサート)打合せ

9月3日→1日
補助金事業
みんなのコンサート
9:00～ 越前市文化センター

9月10日
第一例会行事/ゲスト会員
地区会員増強委員長
甲賀 RC 中嶋 慶喜氏

9月17日
休会